

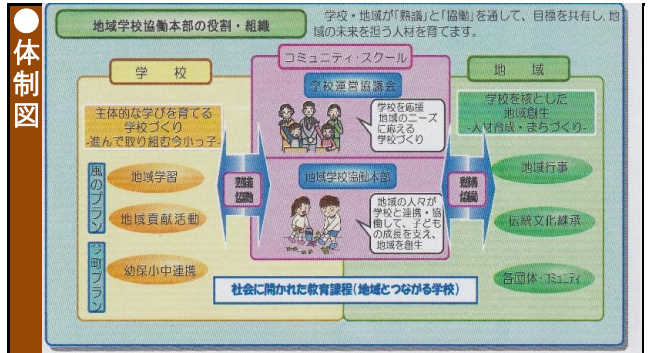
こんな活動です

# 「進んで 取り組む 今小っ子」の育成をめざして — 学校・保護者・地域の協働によるコミュニティづくり —

新潟県見附市	●活動名	●関係する学校名
	今町小学校地域学校協働本部	見附市立今町小学校

協働活動開始年度	平成 30 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	23 学級	のべ児童・生徒数	405 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習		地域人材育成			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数				
	2人		10人				
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携			
	平成23年4月1日設置		78人	無			
参考URL	<a href="http://www.mitsuke-ngt.ed.jp/~imasho/">http://www.mitsuke-ngt.ed.jp/~imasho/</a>						

●連絡先	見附市教育委員会学校教育課	☎ 0258-62-1700
------	---------------	----------------



●活動の概要・経緯

当校はこれまで重点目標「進んで 取り組む 今小っ子」の実現に向けて、地域の自然・人・伝統文化に根ざした教育活動を推進してきた。ふるさとを知り、愛着をもつ子どもを育てるために、日ごろから子どもたちをよく知り支えている保護者・地域・外部組織の代表を学校運営協議会及び地域学校協働本部に迎え、「共に子どもを育てる」という視点から熟議を重ね、協働した取組を進めることとした。また、地域協働の推進役として教育コーディネーターが積極的にかかわり、地域に関する情報提供、各教育活動の企画立案や外部機関との調整役を担っている。さらに、学校(教職員・児童)の願いや思いを教育活動に反映させるため、地域連携推進担当(教務主任)が調整役となり、教育コーディネーターや地域との連携を図っている。

## ●活動の特徴・工夫

- 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】
- ① 伝統的な文化・行事や地域学習への協力: 大風合戦・今町べと人形伝承、防災スクールなどに物心両面から全面的に協力。
  - ② 社会に開かれた教育課程の編成: 地域連携型総合カリキュラム編成をとおして、学校・地域が共にめざす子どもの姿を描き活動を展開。年間5回、推進員、教職員、児童を構成員とした熟議の場を設定。
  - ③ 学校行事等を通じた地域貢献・協働: 学校・地域が参加する「ふたばチャレンジウォーク」や「オータムフェスティバル」を毎年実施。
  - ④ 各団体と協働した地域活性化の取組: 小中PTA・防犯団体等と連携した「地域あいさつ運動」の展開、学校運営協議会と連携した「学校Deイルミネーション」開催、PTAと連携した「みんなでラジオ体操プロジェクト」・おやじバンド活動の展開。
- 【実施に当たっての工夫】
- 既存の教育活動・取組を整理・統合しながら取組を進めることにより、効率的・継続的な取組となるようにしている。
  - 地域・学校が共に考え実践する「熟議」「協働」の場を意図的・計画的に設定することにより、双方にとって意義ある教育活動や実践を創出している。
  - 協働の推進役として教育コーディネーターや推進員が積極的にかかわり、企画・運営、諸活動の調整役を担っている。また、PTA、外部諸団体との連絡調整、情報提供、人材活用を支援しており、教職員の負担軽減にもつながっている。

## ●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- ① 児童・保護者の高い学校好感度  
市共通アンケート結果から、地域や学校に対する児童の愛着の高さ、地域連携や特色を生かした教育活動に対する保護者の評価の高さが表れている。学校運営協議会及び地域学校協働本部事業導入前から「共創郷育」を教育理念に掲げ、地域連携に取り組んできた見附市だからこの結果と考える。
- ② 地域連携教育プログラムの創出  
地域学校協働本部導入により、学校は、これまで取り組んできた地域にかかわる学習を見直し、ねらいを明確にしたり学年間の関連や系統性を整理したりすることができた。教職員も、常に「地域」という視点を持ち、教育活動の実践やカリキュラム作りに取り組むようになってきた。

## ●その他

各学年の総合的な学習の時間における課題解決のための調べ学習や学習成果のまとめ。発信のための表現ツールとしてICTを活用している。(例: 佐渡の自然・伝統文化<6年>日本の食糧生産<5年>7.13水害の記録や防災施設<4年>各地の伝統文化<3・4年>)



伝統文化「大風の絵付け」を学ぶ児童と教員



地域学校協働活動推進員と児童との熟議